

# 第 61 回自動制御連合講演会サンプル原稿

## Sample Manuscript for the 61st Japan Joint Automatic Control Conference

著者の所属 ○ 著者 氏名, 共著 者

\*A. U. Thor and C. O. Author

Affiliation of the author(s)

**Abstract** This document describes the information for authors such as paper submission and the style of manuscript. Only PDF manuscripts are acceptable. The PDF manuscripts should be uploaded on the conference homepage. This document is a template file for a paper, although it is not necessary to strictly follow this format.

**Key Words:** Electrical paper submission, The style of manuscript

### 1 はじめに

自動制御連合講演会用のスタイルファイル `rengo.sty` は ASCII 版の `pLATEX` を想定して作られており, それ以外での動作は未確認です. このスタイルファイルは `pLATEX2ε` および `pLATEX2.09` に対応しております.

なお, 第 60 回までのスタイルファイルからは変更が加えられています. 最新のものをご使用ください.

Microsoft Word を使用される場合は, `rengo2018.docx` をダウンロードし, 原稿を作成してください. それ以外のワードプロセッサをご使用の方は, `rengo2018.pdf` をダウンロードし, 原稿の体裁がなるべくサンプルと近くなるよう原稿を作成ください.

### 2 原稿の投稿方法

第 61 回自動制御連合講演会では, 原稿を PDF でご用意いただき, 大会のホームページ [1] からアップロードしていただきます. 原稿提出締め切りは 2018 年 9 月 14 日 (金) 24:00 です. 遅れないようご提出ください. 使用言語は日本語または英語です.

### 3 原稿の体裁

原稿は A4 版で 2~8 ページとし, PDF ファイルを電子投稿していただきます. アップロードするファイルサイズの制限は 5MB とします.

#### 3.1 全体の体裁

A4 用紙の (US Letter は不可), 縦 250 mm, 横 170 mm の枠内に収まるようにしてください. 余白は, 上 20 mm, 下 27 mm, 左 20 mm, 右 20 mm とします. 活字の大きさは, 日本語・英語タイトル 14 ポイント, 日本語・英語著者名 10 ポイント, 章タイトル 12 ポイ

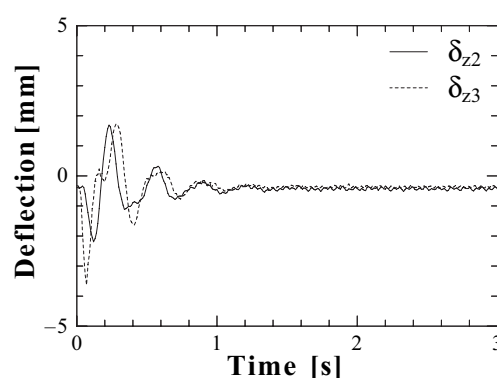


Fig. 1: A sample figure.

ント, 節タイトル 10 ポイント, 本文の活字 10 ポイントを目安としてください. 原稿は,

- 邦文タイトル (英文原稿の場合は不要)
- 英文タイトル
- 邦文著者名 (登壇者に○印) と著者所属 (英文原稿の場合は不要)
- 英文著者名 (登壇者に\*印) と英文著者所属
- 英文アブストラクト (100 ワード程度)
- 英文キーワード
- 本文, 参考文献

の順に書いてください. 英文キーワードまでを 1 段組, 本文・参考文献を 2 段組にしてください.

#### 3.2 図と表

図と表は, Fig. 1, Table 1 のように番号を振り (Fig. 1 参照), 図説, 図中の説明文は英文で記入してください. 本文で引用する場合も「Fig. 1 に示す」などのように Fig. と Table を使用してください.

図や表中の文字は小さくなりすぎないように気をつけてください. PDF 原稿を作成する際, 図の画質が劣化

しないよう、注意してください。特に Microsoft Word などで原稿を作成する際、JPEG 画像を貼り付けると、一度圧縮されている画像が再圧縮され画質が劣化するようです。貼り付ける画像は、画質の良い（圧縮率の低い）画像を用いるか圧縮しない画像フォーマットを選ぶなど、各自工夫し、最終的な PDF ファイルにおいて画質が劣化しないよう注意してください（300 dpi 以上の画質を推奨します）。

### 3.3 数式関係

`eqnarray` を使うと、等号（とは限りませんが）の両側のスペースが広すぎるように感じられたので、この間隔を変更しています。必要に応じて `eqnarray` を再定義している部分を変更あるいは削除してください。

以下は、`eqnarray` 環境の使用例です。

$$\dot{x}(t) = Ax(t) + Bu(t) \quad (1)$$

$$y(t) = Cx(t) + Du(t) \quad (2)$$

### 3.4 定理環境

以下は、`theorem` 環境の使用例です。

**定理 1** ここに定理の内容を記述して下さい。系や補題の場合も同様です。

**証明** ここには定理の証明を記述して下さい。証明の最後には印がつきます。□

定理などの文章は、もともとイタリック書体を使うようになっていますが、和文との整合性を考えて、ローマン書体を使うように変更しています。

## 4 英語原稿

英語原稿の場合は `jarticle` ではなく `article` を使い、プレアンブルで `\english` を忘れずに指定してください。また、`\usepackage{latexsym}` も指定してください（ $\text{\LaTeX}2.09$  の場合を除く）。

クラス/スタイルオプションファイル `sci.sty` に漢字コードが含まれていますので、英語原稿の場合でも日本語の  $\text{\LaTeX}$  環境が必要です。ただし、原稿を記述した `.tex` ファイルや整形後の `.dvi` ファイルに漢字コードが含まれないようにすることは可能です。

## 5 参考文献

文献の引用は本文中に [1, 2, 3] のように書き、本文の最後にまとめて記述します。次のフォーマットを推奨します。

- a) 雑誌論文の場合  
[番号] 著者：論文題目；雑誌名, Vol. 巻, No. 号, pp. 始ページ-終ページ（発行年）
- b) 会議論文の場合  
[番号] 著者：論文題目；会議論文誌名, pp. 始ページ-終ページ（発行年）
- c) 単行本の場合  
[番号] 著者：書名, pp. 始ページ-終ページ, 発行所（発行年）
- c) Website の場合  
[番号] URL

## 参考文献

- [1] <https://rengo61.iscie.or.jp/>
- [2] 佐藤, 鈴木, 高橋：第 61 回自動制御連合講演会サンプル原稿；第 61 回自動制御連合講演会予稿集, pp. 1-4 (2018)
- [3] T. Jido and J. Jido: Paper title; *Journal Title*, Vol. 1, No. 1, pp. 1-4 (2018)
- [4] H. Seigyo: *Book Title*, pp. 1-4, Publisher (2018)